


ひょうご環境保全創造活動助成 活動報告書

団体名	NPO法人たつの・赤トンボを増やそう会		
団体の所在地	兵庫県たつの市	代表者名	前田 清悟

1. 事業名	アキアカネの田んぼでの人工飼育		
2. 実施期間	平成27年4月1日～平成28年3月31日		
3. 主な実施場所	たつの市揖西町中垣内地区の田んぼと実験施設(トンボ池)		
4. 活動形態	実践活動		
5. 活動内容・結果 (参加者、階層・ 人数等)	<p>当会は、全国的にアキアカネが減少する中、田んぼで水生生物が生育出来る農薬(箱処理剤＝殺虫・殺菌剤)を検証すべく実験に取り組み、次の方法で実施した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 内でアキアカネの卵を孵化させ、ヤゴを約10日間人工飼育した。 2. 田植え後の25箇所(田んぼ)に、ヤゴの飼育カゴを設置し、その中の容器へヤゴを放流した。8月上旬まで、2グループに分け、2日に1回カゴの中の天敵チェックとミジンコ補充の為に巡回した。 		
6. 成果・反響・ 反省点等	<ol style="list-style-type: none"> 1. 田んぼでの羽化数は、53匹となり、前年の28匹を大きく上回った。この内、我々が狙いとしている農薬(D農薬)での羽化数は39匹となった。 2. また、田んぼではないが、トロ箱の中に田んぼと同様に農薬(D農薬)処理済みの苗を植えてアキアカネの卵を放流した結果、192匹が羽化した。 3. つまり、D農薬での合計羽化数＝39＋192＝231匹となった。 これによって、D農薬の優位性が証明されたと思う。 4. 今回田んぼでの羽化数が前年28匹に対して53匹となったが、まだまだ不十分なので、トロ箱の機能(天敵防御、水の確保、ミジンコ自然増殖、水温安定)を持った新しい飼育カゴを開発する。 		
7. 成果物	ヤゴの飼育箱と飼育カゴ、アキアカネ情報募集のチラシ		
8. 活動写真	 <p>(田んぼの飼育カゴ) (トロ箱) (アキアカネ)</p>		